

# 平成20年度 学校評価シート

江津市立津宮小学校

中期目標 (今年度の学校経営の重点)		短期目標 (具体的な目標)	成果・取組指標 (目標達成のための手立て)	
力分 の か 定 着 の 授 業 の 図 る 。 創 造 に 努 め 、 豊 か な 学 習 集 団 づ く り 。	確 か な 学 力 の 推 進	①豊かな表現力を培い、 ともに学ぶ力を高める学 習集団づくり。	○読解力及び言語的表現力の向上を目 指した指導方法を工夫する。 ○各学級において、ともに学ぶ力を高め る学習集団をつくる。	・各教科において、読む力、話す力を高める。 ・発表や話し合いの仕方について、型を提示し、繰り返し指導 する。 ・複数の考え方を伝え合う場を工夫する。 ・ねらいに迫るための話し合いの工夫を工夫する。
		②少人数授業や特別支 援の取組により、個に応 じたきめ細かな指導。	○少人数授業により、個に応じたきめ細 かな指導方法を工夫する。 ○特別に支援を要する児童への配慮や 支援の方法を工夫する。	・一人一人の到達度を常に把握するためのアイテムを作る。 ・単元、小単元別に学習プリントを作成し活用する。 ・ここにサポートを有効に活用する。 ・特別支援の取組方法について校内研修を行う。
		③明確なねらいを持った 教育活動の企画と実践。	○算数科を中心とした校内研究を充実さ せる。 ○着実な学力向上対策により、児童一人 一人に成果が現れる。	・全学級担任が算数の研究授業を行う。 ・学力向上委員会を立ち上げ、数値的な目標を掲げ、より具 体的な学力向上対策を行う。
援に道 すよ徳 る。教 育・社 会 的 生 徒 指 導 現 を 充 実 支 援	生 徒 指 導	①教育活動を通しての 道徳的実践力・人間尊 重の精神の涵養。	○いじめのない学校を目指し、心に響く 道徳教育を推進する。	・いじめの実態件数ゼロを目指す。 ・道徳の時間の確保と充実した指導を行う。 ・学校行事や全校活動に、道徳的な観点を持たせる。
		②共感的児童理解に基 づく生徒指導の充実。	○児童理解研修を充実する。 ○自尊感情の醸成を目指した教育活動 を工夫する。	・全児童を対象とした教育相談を定期的に行う。 ・カウンセリングマインドの手法を生かした生徒指導研修を行 う。 ・学校行事を生徒指導に生かす。 ・褒賞の機会を設ける。
		③教職員の共通理解・ 協力体制により、社会規 範を遵守する態度の育 成。	○へんじがで、けじめのある行動がとれる 児童の育成する。 ○朝読書の充実により、落ち着いた朝の スタートを切る。	・年間を通じた生活を目標に掲げる。 ・強化月間を設ける。 ・朝読書の時間確保に努める。 ・読書活動の工夫を行う。
校図健 の康 創、安 造、安 心指 導の 努め の徹 しい 底 学	体 力 の 向 上  安 全 対 応 能 力 の 向 上  健 や か な 体	①体力・気力の向上を図 る健康安全・体育の充実	○重点的な体力づくりを行う。	・ブリッジ、鉄棒運動を重点種目とし、授業にで 行。 ・水泳検定、なわとび検定を行う。 ・走る力を伸ばす。
		②危機管理体制の確立 と安全意识とルール遵守 の態度の育成。	○児童の安全意識を高め、危険回避能 力高める指導を行う。	・学校事故ゼロを目指す。 ・各学年で実態に応じた安全教育を行う。 ・毎学期、避難訓練を行う。 ・PTAとの共催で救急法講習会を行う。
		③食育・生活リズムの徹 底を図り、児童の健康の 維持増進を図る。	○食育、生活リズムの確立を目指す。	・児童の実態を把握し、適切な目標を提示する。 ・PTAとの共催で、元気っ子を育てる会を年2回開催する。
豊 か な 情 操 を 培 う 環 境 づ く り を す る 。	学 校 運 営  安 全 管 理  学 習 生 活 環 境  学 校 間 の 連 携	①教職員の目標に向か う協働の姿と子どもの好 ましい人間関係の構築。	○教職員の自己目標達成に向け、具体 的な取組を推進する。 ○好ましい人間関係の構築を目指した取 組を充実する。	・学年部、分掌部等の支援体制を整える。 ・相互に情報交換を行い、中間評価を行う。 ・なかよし班活動やなかよし集会を充実させる。
		②施設設備の保全及び 文書・備品の管理の徹底 と、安全確保及び教育効 果を高める。	○安全・環境に視点を置いた点検を毎月 行う。 ○文書及び備品管理の工夫改善を行う。	・毎月15日に環境安全点検を行う。 ・毎学期、遊具の安全点検を行う。 ・文書管理システムの定着を行う。
		③教育活動に資する校 舎内外の言語環境の整 備。	○教室や廊下の掲示について、工夫改 善を行う。	・定期的に言語環境チェックを行う。 ・児童や保護者にアンケートを取り、環境整備に反映させる。
		④子どもの感性・情操を 育む自然環境の創造と 活用。	○うるおい」と「ぬくもり」のある環境整備 を進める。	・子どもたちにとって、「居心地のいい場所」「お気に入りの場 所」を提供する。 ・中庭、ベランダ、階段、校庭周辺、玄関などを重点的に整備 する。 ・自然に親しむグッズを揃える。
援人 教権 育教 の育 推・ 進特 別 支 援	人 権・ 同 和 教 育  特 別 支 援 教 育	①同和教育を核とした人 権教育を推進する。	○人権・同和教育に視点を当てた参観授 業を行う。	・10月の参観日は、どの学級も一斉に人権・同和教育に視 点を当てた参観授業を行う。
		②特別学級・通級指導 教室・通常の学級での個 のニーズに応える特別支 援教育を積極的に推進 する。	○特別支援部より、推進体制を強化す る。	・職員研修を充実する。 ・情報交換を適時に行う。 ・個別に支援の計画、指導の計画を綿密にする。